

事務局から

AIの進化が著しいです。今号はAIを活用して、編集・発行に挑戦してみました。「この人に聞く」の文字起こしは、AIを使っていた。今までは、何度も耳で聞きながら文字起こしをしていました。今回は画面をクリックするだけで、音声で文字になってパソコン画面に表示されます。もちろん、100%完全ではありませんが、大意はわかります。文字化したデータを今回はGoogleが開発した対話型生成AIツールGeminiを利用して、原稿化しました。原稿化に要する時間は数分でした。今までは、苦勞して原稿化していたことが嘘のようでした。原稿化に当たっては、文字数を指定したり、どんな表現法で原稿化するかも指定することができます。AIを使って作成した「この人に聞く」、お読みいただいた感想を事務局にお寄せいただければ幸いです。

編集後記

高市政権は「戦争する国づくり」に猪突

猛進のような感じでした。まさに「新しい戦前」の様相です。過去を知ること、これからの私たちの暮らしと教育はどうか、予測できるのではないかと特集を組みました。

成嶋隆さんからは、今進められている「国旗損壊罪（日本国章損壊等罪）」の創設に対して強く反対し、その無意味さと危険性を告発する。奇稿をしていた。

小東由男さんからは、戦前の石山村の資料を基に、兵役制度の変遷や地域団体の活動を通して村全体が総力戦体制へ組み込まれていく軍事行政の実態を解明し、その歴史的教訓から現代の憲法改正議論に警鐘を鳴らす原稿が寄せられた。

青柳勇治さんは、戦前・戦中に治安維持法で共産主義と結びつけられ弾圧された新潟の生活綴方教師らの実態を報告していた。

小林朗さんからは、中学生が知識を活用し、戦争を多角的に考察する「歴史日記」と現代の国際情勢と結びつけて平和を願う主体的思考が見られる感想ノートの紹介があった。子どもたちのこれからの期待したい。

平田洋子さんからは、新潟市が建てないと言っていた秋葉区だけにはない児童館が、一転して設置するまでの詳しい経過を報告していただきました。

岡野勉さんからは、新潟大学の学長選挙

を巡り、学外委員に過度に偏った選挙の妥当性や、選挙公議の説明責任、そして大学の自治や民主主義のあり方を問うた論稿が届けられました。

坂井雅博さんからは、学校で働く会計年度任用職員の低賃金や不合理な公募制などの実態を捉え、労働組合の運動を通して処遇改善を勝ち取ってきた歩みの報告と今後も抜本的改善に向け運動を強める重要性を論じていただいた。

にいがたの教育情報 No. 144

2026年6月24日発行

編集 にいがた県民教育研究所
編集委員代表 和澄利男
編集委員 小野塚恒男 河合靖久 小東由男
発行 にいがた県民教育研究所
発行人 小林 昭三
〒956-0024 新潟市秋葉区山谷町3-2-9
和澄利男気付 TEL・FAX 025-369-0671
振替口座 00640-0-12332
Eメール kyoiku2nde-m@nancv.jp
印刷所 神林印刷 TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。